

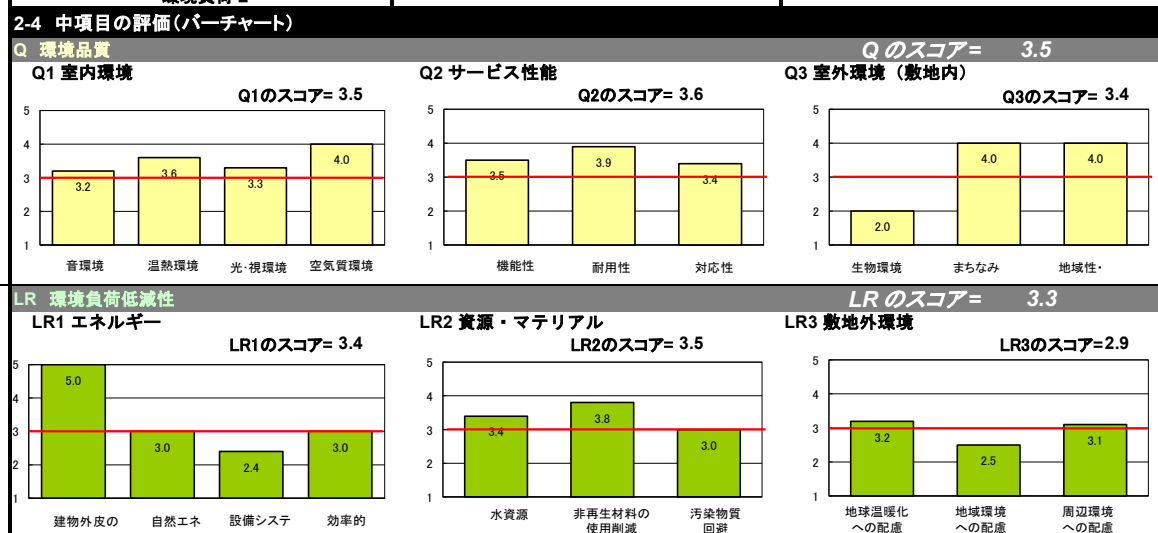
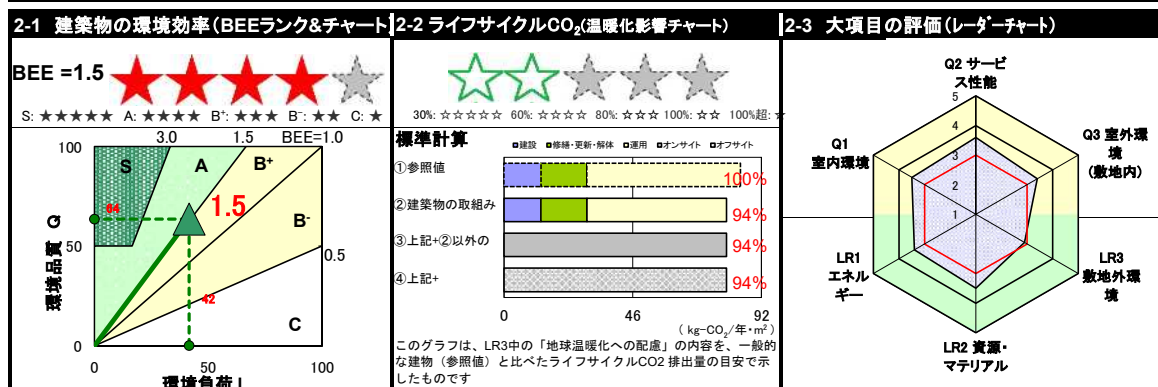
CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	一宮市保健所	階数	地上4階	
建設地	愛知県一宮市和光2丁目 1番12、1番13、1番14、1番15、1番16、1番19	構造	RC造	
用途地域	工業地域	平均居住人員	338 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年	
建物用途	0	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年12月1日	
敷地面積	2,843 m ²	作成者	石本建築事務所 柳美香	
建築面積	1,314 m ²	確認日	2023年12月1日	
延床面積	4,162 m ²	確認者	石本建築事務所 本村雅昭	



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.2	2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		8.4 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.7	2.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		愛知県産材の木パ [®] 杉

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
一宮市保健所

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質										3.5	
Q1 室内環境						0.40			-	3.5	
1 音環境				0.1	3.2	0.15			-	3.2	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40			-		
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40			-		
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.60			-		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40			-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-			-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-			-		
1.3 吸音		執務スペースの床と天井に吸音性のある仕上を採用する。		-	4.0	0.20			-		
2 温熱環境				0.3	3.6	0.35			-	3.6	
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50			-		
1 室温				3.0	3.0	0.38			-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25			-		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38			-		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20			-		
2.3 空調方式		執務スペースは床吹き出し空調とする。		3.0	5.0	0.30			-		
3 光・視環境				0.2	3.3	0.25			-	3.3	
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30			-		
1 昼光率				3.0	3.0	0.60			-		
2 方位別開口				3.0	-	-			-		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40			-		
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30			-		
1 昼光制御		執務スペースや検査室にはブラインド+庇を設置。		5.0	4.0	1.00			-		
3.3 照度				3.0	3.0	0.15			-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25			-		
4 空気質環境				0.2	4.0	0.25			-	4.0	
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50			-		
1 化学汚染物質		内部は全てF☆☆☆☆、化学物質濃度測定を実施。		3.0	4.0	1.00			-		
4.2 換気				0.3	4.0	0.30			-		
1 換気量		建築基準法の基準値の1.4倍以上の換気量となっている。		3.0	5.0	0.33			-		
2 自然換気性能		執務スペースに開閉可能な窓を設置している。		3.0	4.0	0.33			-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33			-		
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20			-		
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50			-		
2 喫煙の制御		敷地内禁煙とする。		3.0	5.0	0.50			-		
Q2 サービス性能						0.30			-	3.6	
1 機能性				0.4	3.5	0.40			-	3.5	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.3	0.40			-		
1 広さ・収納性				3.0	1.0	0.33			-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33			-		
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	0.33			-		
1.2 心理性・快適性				0.3	4.6	0.30			-		
1 広さ感・景観 (天井高)		執務スペースの天井高さは2.75m以上ある。		3.0	4.0	0.33			-		
2 リフレッシュスペース		4階にリフレッシュに利用できるラウンジ・1階に自動販売機の設置。		3.0	5.0	0.33			-		
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画を実施している。		3.0	5.0	0.33			-		
1.3 維持管理				0.3	4.0	0.30			-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材を採用している。		3.0	4.0	0.50			-		
2 維持管理用機能の確保		2階に清掃員控え室を設置している。		-	4.0	0.50			-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.9	0.31			-	3.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	4.6	0.48			-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数1.5		3.0	5.0	0.80			-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33			-		
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23			-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23			-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット20年、壁:EP-Si65年		-	5.0	0.09			-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08			-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水配管はB又はCとなる。		-	4.0	0.15			-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23			-		
2.4 信頼性				0.1	3.4	0.19			-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			-		
2 給排水・衛生設備		地下ピットに排水の貯留が可能。		3.0	4.0	0.20			-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.20			-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		3.0	4.0	0.20			-		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20			-		

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高4.0~4.2m	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.23	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	バルコニーや庇で建物ボリュームを分割し、圧迫感を軽減している。	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	4.0	0.30	-	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	愛知県産材を利用している。	-	5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.68	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.91	3.0	2.4	0.30	-	-	-	2.4
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓や節水型便器を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	床:ビニル床タイル、床:ビニル床シート、天井:岩綿吸音板	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	内装が乾式工法で分別性に配慮している。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率94%	-	3.2	0.33	-	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	隣接する商業施設の出入口から敷地出入口を離している。	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		広告照明設置なし	-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
宮市保健所

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	3.7	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.9	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19		
③ 敷地内の緑化					2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:8.4%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	愛知県産材の木パネ	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 一宮市保健所

計画上の配慮事項	
総合	・市民の安全・安心を守る高い水準の保健衛生サービスを提供できる保健所。 ・利用者にとって分かりやすい動線や室レイアウト。 ・健康危機、災害時にも確実に機能する保健所。 ・近隣への日影の影響や交通渋滞へ配慮した計画。 ・一宮ならではのアートの導入、一宮の水や緑環境をコンセプトとした内外装
Q1 室内環境	・執務スペースは居住域を効率的に空調する床吹き出し空調とする。 ・執務スペースや検査室にはブラインドに加え、庇となるバルコニーを設置している。
Q2 サービス性能	・執務スペース以外の職員のワークスペースや休憩に利用できるラウンジを設けている。 ・一宮市の木曽川や真清田神社の由来となった水田の風景から水の流れ水面をモチーフとし建物の内外装計画で表現している。 ・災害時に業務を継続するための発電機や排水貯留槽を設置するとともに、感染症拡大時に用途転換できる部屋を設けている。
Q3 室外環境(敷地内)	・バルコニーや庇で建物ボリュームを分割し、圧迫感を軽減している。 ・県道に面して植栽や大きな庇下の空間、アートのあるエントランスホールを設置し、住民が気軽に立ち寄れるオープンスペースをつくっている。
LR1 エネルギー	・ハイサイドライト等による自然採光を行っている。 ・執務スペースや検査室には手動で開閉できる窓を設置している。
LR2 資源・マテリアル	・内装材にリサイクル資材を採用している。 ・節水型の衛生設備を採用している。
LR3 敷地外環境	・十分な駐車場や車寄せスペースを確保し、周辺の交通負荷を低減している。 ・敷地内に駐輪場を設置している。
その他	・検査機器の増設や更新がしやすいように、外壁やバルコニーに配管スペースを設けている。